



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

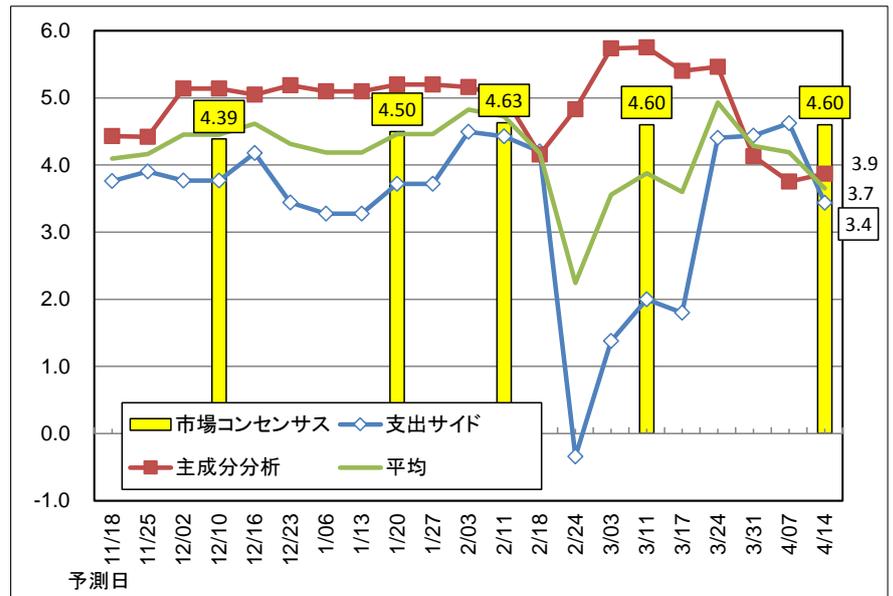
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年4月14日)

ポイント

- ▶今回予測で更新されたデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、純輸出及び主要デフレーター(輸出入及びGDP)の予測に影響を与える。
- ▶2月の消費総合指数は前月比-1.0%低下した。大雪の影響もあり2ヵ月ぶりのマイナスだが、1-2月平均は10-12月平均比+1.1%高い水準。
- ▶2月のコア機械受注は前月比-8.8%減少。2ヵ月ぶりのマイナスで事前予測を大幅に下回った
- ▶2月の経常収支(季節調整値)は2ヵ月連続の赤字となったが、赤字幅は前月から-93.0%大幅に縮小した。
- ▶今週(4/14)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.4%と予測。先週から下方修正(+4.6%)。純輸出の予測値は上方修正されたが、民間最終消費支出と民間企業設備の予測値はともに下方修正されたため。
- ▶4月のESPフォーキャスト調査では、エコノミストのコンセンサス予測は+4.60%となっている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<大雪の影響で2月の民間消費は一時的に減速するも、1-3月期経済は高成長が期待できる>

今回予測で更新されたデータは、3月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、2月の消費総合指数、機械受注統計、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。これらのデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、純輸出及び主要デフレーター(民間企業設備、輸出入及びGDP)の予測に影響を与える。

2月の消費総合指数は前月比-1.0%低下した。家計調査報告と同様に大雪の影響がみられる。2ヵ月ぶりのマイナスだが、1-2月平均は10-12月平均比+1.1%高い水準となっている。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から下方修正された(前期比+2.3%→同+1.5%)。

2月のコア機械受注は前月比-8.8%減少し2ヵ月ぶりのマイナス。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質民間企業設備の予測値は先週から下方修正された(前期比+2.3%→同+1.5%)。

3月の輸出入物価指数はともに予測値を下回った。また2月の経常収支(季節調整値)は-414億円と2ヵ月連続の赤字となったが、赤字幅は前月から-93.0%縮小した。結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された(3,549億円→4,306億円)。

今週(4/14)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.8%、同年率+3.4%と予測。先週の予測から下方修正(+4.6%)となった。実質純輸出の予測値は上方修正されたが、実質民間最終消費支出と民間企業設備の予測値はともに下方修正されたためである。ちなみに4月10日に発表されたESPフォーキャスト調査では、1-3月期のエコノミストのコンセンサス予測は+4.60%となっている。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690